

令和5年度 学校評価 重点課題 評価及び改善策

教育目標・学校経営方針

教育目標	児童生徒の発達や特性を考慮し、一人一人のニーズに応じた教育を通して、社会で自立し、健康で心豊かに生きる人間を育む。
学校経営方針	・子どもを中心に据え、一人一人の実態とニーズに応じた教育を行う。 ・安全で安心して学べる学校環境づくりに努める。 ・学校・家庭・地域が一体となった学校づくりに努める。 ・教職員同士が協力し明るく意欲あふれた学校づくりに努める。

評価基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：やや不十分、一部改善が必要 D：改善が必要

重点目標	重点課題	具体的な取組（評価の観点）	評価	評価に対する考察	改善策・新たな課題
1 学習活動の充実 ・探究心を育む授業を展開するため、教科等の教材開発や研修に努めるとともに、将来を見据えた指導を進め、体験的な学習を充実させ、児童生徒の習得レベルの向上を図る	（１）小学部段階や重度重複障害の子供たちへのキャリア教育の推進 ・学習指導部・進路指導部 ★関係する質問事項 No.4・5	・教育課程研究集会における「キャリア教育」に関する研究を通じて、キャリア発達の実態を見定め、それに基づいた学習課題や学習活動を設定、実践、評価する。	B	・本校においては、「キャリア教育」に関する研究を、学校課題研究のCグループに位置づけて研究を進め、さらに今年度よりそのグループにおいて小学部段階、重度重複障害の子供たちに焦点を当てたキャリア教育の在り方を模索している。今年度は、開始年度ということもあり、そうした子供たちを対象としたキャリア教育の捉え方や子供の実態把握を中心に研究を進めてきた。そのため、教育実践に直接結びつかなかった教員も存在することから、教職員のアンケートにおいては、「多少の課題あり」との評価や、保護者のアンケートにおいては、教育実践の情報等が保護者へ十分に伝わらなかったために、「よくわからない」との評価を一部の回答者よりいただいたと思われる。よって、本重点課題に対する評価としては「十分達成した」とは言い難く、「おおむね達成した」との評価とし、次年度へ引き継ぎたいと思う。	・次年度も引き続き、同じテーマで研究を推進するが、内容的には教育実践の方向へシフトし、それによって体験的に得られた情報に基づいて、小学部段階や重度重複障害の子供たちへのキャリア教育の在り方を分析していく。また、保護者に対しては、そうした実践の様子を含んだ情報等を個別の指導計画やホームページ等を通じて発信するといった方法で、発達段階や障害の程度にかかわらず、どのような子供にとっても将来を見据えた教育的かわりが、子供の成長の大きな指標になることを訴えかけていく必要があると考えている。
	（２）ICT機器等に関する職員の知識・技能の向上と、活用による児童生徒の経験の拡大 ・情報部 ★関係する質問事項 No.3	・ICT機器やアプリ、デジタル教材の紹介、活用の仕方を、見やすく、分かりやすく提案する。 ・使用法、活用に関する職員研修を実施する。	B	・夏季休業中の教職員向け希望研修では、事前アンケートで募集した質問や困りごとや、その場での質疑にリアルタイムで回答・実践する内容で行い、「参加してよかった」、「質問に答えてくれるのはありがたかった」等の評価をいただいた。 ・「情報つぶやきボット」として、様々な場面での困りごとを想定した解決策やちょっとしたテクニックを定期的に教師のパソコンに配信。「便利」、「助かる」等の声をいただいた。 ・11月に情報モラル講座（生徒・保護者対象）・研修（職員対象）を実施。講座中に使用した教材等は今後も有効であるとの評価があった。 ・Zoom Proの導入により、学校行事等のオンライン開催、保護者向け配信など、実施方法の幅が広がった。	・「〇〇検定」のような要素を取り入れ、参加しやすい雰囲気づくりにも取り組んでいく。研修内に、困りごとに対して回答する時間は必ず確保するようにする。 ・Zoomや電子黒板等の扱いに関して、最低限度の内容に絞り込んだ簡易マニュアルを各場所に設置し、迅速な問題解決と、苦手意識の解消を狙う。 ・「情報つぶやきボット」の内容を随時追加・保管し、継続して取り組んでいく。
2 安全・安心 ・児童生徒が心身ともに安全で安心して学べる学校環境づくりに向け、施設・設備の整備点検、各種マニュアルの点検を行い、実践的な指導を推進する	（１）災害、不審者、事故、緊急時等に対する危機管理能力の向上 ・生活指導部 ★関係する質問事項 No.2・3	・危機管理対応マニュアルを見直し、組織や体制を分かりやすくする。 ・災害、不審者、事故、緊急時を想定した実効性のある訓練を実施し、職員それぞれの役割を習得する。	B	・県指定の様式に沿った、マニュアルの見直しを行った。 ・各種訓練とともに、様々な状況を想定し、教職員の役割を確認できた訓練となった。特に、安否確認方法や状況確認等の改善も図れた。しかし、児童生徒の実態に応じた（車椅子）避難手段や方法の点で課題が残った。また、緊急を要する事態になった場合の病院との連携も併せて検討が必要となった。	・校舎の各階から安全に短時間で避難させる移動手段の見直し、改善を行う。 ・雨天時の避難方法や引渡しを想定した訓練を実施する。

3 地域との連携 ・保護者・地域・地域の学校との連携を強化しながら、交流活動などを充実させ、児童生徒が社会とつながることを目指す。また、特別支援学校として効果的なセンターの機能の充実を図る	(1) 保護者・地域・地域の学校との連携の強化 ・渉外部 ・特別活動部 ★関係する質問事項 No.2・4	・保護者との行事等において、選択肢の一つとしてオンラインによる参加の方法を加え、活動の充実に繋げる。 ・学校間交流や地域の人材（足特サポーター等）を活用した交流について、これまでの活動を踏まえつつ、相互評価を取り入れ、活動の充実を図っていく。	B	・PTA総会について、オンラインによる参加も可能になり、院内学級の保護者から出席があった。例年より参加者が増えて本校のPTA活動の理解につながった。11月の特教振大会についても学校及び自宅でオンラインによる参加者が増えて特別支援教育の理解を深める機会となった。さらに創立50周年記念式典では、希望する保護者にオンラインで式典のビデオ配信を行った。 ・地域との交流について、おおよそ、対面交流にて実施することができた。担当者がコロナ禍以前の様子がわからない学校もあったが、新たに話し合いをし、進めてきた。 ・今年度、学校間交流において、相互評価のアンケートを実施した。相手校にも協力していただき、実施済みの交流での回収率は100%となっている。全終了後、分析等を行う。	・来年度は、PTAバザーを含めた通常の行事ができると思われるので、一つ一つの行事を充実できるようにしたい。また、今年度は、創立50周年記念事業があり、保護者と教職員が話し合い、連携、協力しながら実施することができた。今後は、保護者と教職員の関りが深められる時間が取れるような計画を考えていきたい。
	(2) 特別支援学校として効果的なセンターの機能の充実 ・地域支援部 ★関係する質問事項 No.4	・地域の小・中学校や関係諸機関など外部の方を対象とした研修会の方法を検討しながら、本校の教育や特別支援教育への理解・啓発を図っていく。		・夏季研修会は体験型の複数の内容を計画して実施した。送付した資料を参考にしながら各自で教材作成を行う「自己研修」という形を設けるなど、対面での開催方法だけでなく、新たな研修の形を取り入れるなどして開催することができた。参加者はそれほど多くはなかったが、参加した先生方からはアンケート等で好意的な意見をいただくことができた。また、足利・佐野特別支援教育研修会では、感染症対策等を講じながら、数年ぶりに対面での研修会を実施することができ、200名を超える地域の小・中学校や関係諸機関の方々に研修会に参加していただくことができた。	・次年度より「足利・佐野特別支援教育研修会」という大きな枠組みをなくして、地域の様々なニーズに応じた研修会を、これまで以上に充実させて企画していければと考える。参加対象者を分けて、研修内容を絞ったり、実施形態を工夫したりして、今後も多くの方に参加していただき、特別支援学校として地域のニーズに応えられるようなサポートを行っていければと思う。
4 意欲向上 ・明るく意欲にあふれた学校づくりに向け、常に児童生徒の成長を中心に据え、教職員間の信頼関係と協働体制の確立、専門性の向上に努める	(1) 円滑な業務遂行に向けた環境の整備 ・教務部 ★関係する質問事項 No.1	・統合型校務支援システムや校内の電子決裁等について、円滑な活用に向けて関係者と連携を取りながら、校内での業務内容を整理し業務の効率化を図る。	B	・特別支援学校（視・聴・肢・病）における校務支援システム運用に係る協議会で、情報交換を行い、他校の情報を掲示板にて全体周知することができた。全体的に不具合の多い賢者システムではあるが、出席簿、指導要録、通知表等の活用が進んでいる。また、教員評価アンケートの結果からも分かるように、A評価の割合が高い。その要因として、School Wareの連絡事項や掲示板等の積極的活用により、朝の打合わせを簡略化できていることが挙げられる。校内の電子決裁についても、利用率が高まり業務の効率化が図られてきている。	・校務支援システムの活用に関しては、利用率が高まってきた反面、使うことが目的になっている傾向もある。各種書類の電子化・簡略化を進めつつ、業務の目的を再確認し、手段が目的化していないかを問い、引き続き業務のスリム化を図っていく。また、業務の引継ぎ等も考え、各種電子文書の保存方法を整備していく。
	(2) 教職員の専門性の向上 ・学習指導部 ★関係する質問事項 No.2・3	・学校課題研究の実践を継続し、児童生徒理解を深め指導力の向上を図るとともに、研究の内容を校内全体で共有し各自の指導に生かす。		・これまでの学校課題研究の経過を踏まえるとともに、栃木県特別支援学校教育課程研究集会の伝達会を実施した。伝達会では、課題研究の趣旨、留意点等を再確認し共通理解を図った。また、今年度は、各学部、学習グループがそれぞれ新しいテーマに沿った研究の初年度となり、各研究グループとも、テーマに対する基本的な捉え方の共通理解や事例検討会等を月に1回実施している。教職員アンケートにおいては、課題研究を通して、指導方法等共通理解を図ることができた、との意見がある反面、他の学習グループの研究内容に関しては把握できていないという意見もあった。これは、他グループの研究内容等を知る機会が、伝達会と年度末の課題研究報告会に限られていることも要因の一つと考える。各グループの研究内容を学校全体で共有できる更なる工夫が必要となる。	・次年度は、各グループとも課題研究2年目となる。今年度策定した研究計画に沿って進めるが、すべてのグループにおいて対象を絞り、授業実践や事例検討会が展開される。その過程で各グループの実践内容等について、他グループの教員が知る機会として、課題研究日に行った話し合いの記録を確認してもらうよう積極的に働きかけていく。また、教育課程研究集会の伝達会や年度末の経過報告会継続して実施する。